

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791400023		
法人名	有限会社ほしくぼ		
事業所名	グループホームわくがわ		
所在地	沖縄県国頭郡今帰仁村字湧川1578-2		
自己評価作成日	令和3年3月3日	評価結果市町村受理日	令和3年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4791400023-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和3年 3 月 17 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームわくがわは、やんばるの自然に囲まれ羽地内海がみおろせる高台に位置し穏やかな時を過ごせる環境にあります。
 入居者、地域、職員の3本柱で地域に溶け込み支え、支えられる関係を作り開かれたホームを目指しています。
 重度化・看取りに対しては、事業所に看護師、また村内の診療所の医師の協力のもと、日頃の健康管理を含め、緊急な事態にも対応できる体制を取っています。終末期ケアに関しては要望に応じ、望む方に関しては当事業所での看取りを実地している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、北部ののどかな農村地の集落に位置し、鳥のさえずりが聞こえる緑豊かな場所で、穏やかで落ち着いた生活を送ることができる環境である。敷地内には同法人の他のグループホームと有料老人ホームの3事業所を併設している。コロナ感染予防のため、外出制限や家族との面会自粛等により地域との関わりが難しくなっているが、感染症対策に配慮しながら利用者と家族が交流できる場づくりを心がけることで、利用者の心的ストレスや、孤独感の解消のケアに取り組んでいる。理念の共有と実践に向けては、年度初めに理念を基にして個別での目標を立てて、定期的に管理者との面談の場も設け、実践につなげている。今年は、職員の働きやすい環境づくりや、意欲をもって長く仕事が続けられるように待遇を含めて見直しを行い、職員の勤務継続につながる取り組みを実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時に理念について説明している。 申し送り時に出勤者全員で理念を唱和している。 年度初めのミーティングにて理念をふまえた本年度の目標を決め、取り組んでいる。	理念は事業所内に掲示し、毎朝の朝礼時に職員全員で唱和している。年度初めには、理念を基にして個人目標を立て、年度末には立てた目標の振り返りも行っている。入居者、地域、職員の三本柱にして、安心と満足、生きがいを持てることを実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・毎年、代表者、管理者は地域の清掃活動や行事へ参加。行事の際の着付けや会場設営などにも積極的に参加し、会社所有の鉄板焼き機と焼き窯も無料貸し出ししていたが、今年度はコロナの影響により全ての地域行事が中止となり参加できていない。 ・近隣住民とはお互いに差し入れなどを通し交流を行っている。	コロナ禍で地域との関わりは難しくなっているが、近隣の方からの野菜の差し入れがある。これまでは、地域の諸行事にも参加しており、地域との付き合いや行事の参加へも、引き続き継続していきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・毎年、運営推進会議に地元の区長さんが参加されグループホームでの状況や認知症についての説明を行い、村の祭りや地元で開催される盆栽展などに入居者の作品を出展し地域行事にも参加していたが、今年度はコロナの影響によりすべて中止となり例年通りの貢献ができていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナの影響により開催できていないが、有識者や包括職員とは定期的に連絡をとり情報提供や、助言を頂いたりしている。	これまで運営推進会議は2か月に1回、利用者、家族、行政職員、社会福祉協議会職員、区長、知見者等が参加し開催している。去年の3月からは、コロナ禍のため、電話等で確認しながら、サービスの向上に活かせるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度はコロナの影響により運営推進会議が開催できず、市町村担当者を招いて話をする場がなくなってしまったが、管理者が令和2年度今帰仁村高齢者福祉計画策定委員に選出され、役場のほうで開催される策定委員会に参加し、そこで自施設の実情報告をしたり、助言を頂いたりしている。	行政担当者は運営推進会議の構成員でもあり、日ごろから事業所の実情や取組等の報告、相談を行っている。また、管理者が村の高齢者福祉計画策定委員会にも参加し、情報提供を活用しながら、協力関係を築いている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングで、全職員で身体拘束の勉強会を通じ、身体拘束について考え、定期的に開かれる身体拘束委員会の会議では有識者にホームの情報を伝え身体拘束のない開かれた事業所を目指している。又ホームは日中は玄関の施錠はなく、職員間でコミュニケーションを取りながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に向けて、各職種の役割を明確にして責任を持って対応できるようにしている。適正化のための対策検討委員会は、2か月に1回開催していたが、コロナ禍のため現在は職員間で勉強会や日頃のケアの振り返り、利用者への支援が身体拘束になっていないかの検討等を行っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングなどで勉強会を行い虐待防止の徹底に努めている。身体拘束同様に自分の身になり考えて業務につくようにしている。	虐待防止の徹底に向けて、年間計画を立てて勉強会や毎月のミーティングでも日頃のケアを振り返り、検討を行っている。管理者は職員の健康状態にも留意し、勤務調整や相談等の話を聞く時間を設け対応している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の希望があればすぐに対応し、居室に仏壇を置いている方もいる。自宅からテレビを持ち込み居室に配置し好きな時に見れるようにしている方もいる。読書の好きな方のために机とイスを居室や居室前に設置している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を説明し、同意語利用契約書にて契約を行っている。わかりにくいことがないか都度確認しながら契約に至っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・コロナの影響により面会を禁止にし家族来訪が減少したが家族とは連絡文書以外にも電話やLINEなどで連絡をとり要望をその都度確認している。 ・入居者が意見を言いにくい時などは居室や事務所にて話を聞きプライバシーに配慮し話せる雰囲気作りをしている。意見箱はあるが利用はまだない。	コロナ禍で面会も難しいが、電子媒体等を活用して、家族との面会ができるようにしている。県外の家族が面会に来た時には、屋外で面会ができるように調整したり、状況を見ながら窓ガラス越しに利用者の様子が見れるように対応したりしている。要望等は、日々の生活の中で聞いている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が管理者へ意見や提案が言いやすい環境を心掛けている。またミーティングや日頃の業務での意見も検討し反映できるようにしている。	月1回のミーティングや年2回の個別面談、日々の業務の中で職員の意見を取り入れて運営に活かしている。利用者の入浴時に頭の支えになるものや、コロナ禍で必要な体温測定器の購入、処遇改善加算の説明やAEDの使い方の勉強会など、職員からの要望に対応し、日々の業務に反映できるように取り組んでいる。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・契約社員の登用や、資格者の資格手当などの整備に努めている。 ・また職員の勤務希望に応じて調整している。 ・今年度より勤続年数により昇給できる制度を導入実施している。	就業規則が整備され、有給休暇の取得や健康診断の実施、資格取得に向けた支援、研修会への受講支援がされている。令和3年1月には、職員の待遇改善を図るために、昇給等についての見直しを行った。法人内での勤務場所の変更やシフト調整なども職員の要望に合わせて働きやすい職場となるように努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、ミーティングで1つテーマを決め勉強会を行っている。講演会や研修の案内があるとすぐに職員に周知し、参加希望者がいると勤務調整し参加させ、研修時間分の時給も支給している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接するグループホームとは毎日のように職員、入居者と交流がある。火災報知器の登録をお願いし緊急時でも助け合えるようにし、消防訓練では毎回参加してもらっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の生活の中で買い物へ行きたい方がいれば行けるように支援している。サービスを導入する際、本人の話しをよく伺い 要望に答え信頼関係が築けるように努めている。 積極的に声かけ、笑顔で接し安心して過ごせるように関係作りに努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が面会の際に要望を聞く。「毎日洋服を着替えさせてほしい」「洗面台の鏡の位置を直してほしい」などの意見にすぐ対応し、信頼関係づくりに努めている。 毎月の請求書は管理者が村内の家族には配達しており不在時以外は手渡しし利用者の状況報告や家族の要望を聞いたりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況を把握し何が必要か見極め他のサービスの利用を含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	天気の良い日は散歩に行き花を摘んで生け花にししたり、散歩後玄関先ベンチで景色を見ながら歌を歌ったり体操をしたりして関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・コロナの影響により面会を禁止や制限にしているため家族の来訪が減っているがガラス越しの様子を見てもらったり、外で面会できる場を作ったりしている。 ・県外でなかなか来訪できない家族へはメールやLINEで活動写真などを送り状況を報告したりテレビ電話ができる環境を作ったりしている		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・毎年、地域行事や老人会の集まる催し物に参加し、馴染みの人との交流できるように支援していたがコロナの影響によりそれえができなくなった。 ・管理者は地元民生員など交流し情報を共有し利用者へも馴染みの人や場所の状況を話している。 ・散歩やドライブでは利用者の馴染みの場所を通り、知り合いがいれば話ができるように支援している。	利用者本人、家族からのアセスメントや日々の会話から地域社会との関係性の把握に努めている。また、地域出身の職員が多く、利用者と馴染みなこともあり、本人や家族との関係も築きやすく、利用者も不安なく事業所になじみやすい。現在はコロナ禍のため地域行事等の参加は自粛している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	天気の良い日は皆で散歩に行けるように支援している。仲の良い利用者は近くの席になるように配置している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りをした利用者家族が、その後も近くへ来た際は立ち寄ってくれたり、家庭菜園で育てた野菜をホームに差し入れてくれたりしてくれている。旦那さんが入所されていて看取り後数年して奥さんが本人、家族の希望で入所されている方もいる。看取りを行った利用者家族には退所後しばらくして利用者の写真や編集した動画を差し上げている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、暮らし方の希望を聞き、日々のサービス内容に取り入れている。介護度更新時新たに本人や家族の意向を聞き暮らし方の意向を再確認している。日常生活の中から、入居者の暮らし方を把握しその方にあった一日を過ごせるように努めている。	利用時のアセスメント、担当者会議や利用料の支払い時(事業所へ持参しての支払いとなっている)に家族からの情報、日常会話、利用者の行動等から思いや意向の把握に努めている。利用者が死後の不安など、地域の区長等にも相談を聴いてもらって利用者が安心して生活できるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、以前いた施設より情報提供を参考にしている。本人、家族、親戚、近隣の方より情報を得よう努めている。又、会話の中から入所前までの様子を聞き出すように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	静かに過ごしたい方は、全体活動声掛けを行うが、自室で過ごしたい場合は自室で過ごしてもらっている。 ADLの現状を日々の生活から把握し、変化に応じた介護内容に変更している。食事、嚥下状態に合わせ普通食、刻み食、ミキサー食にし介助の方法もその方に合わせている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式C-C-Iを利用し本人、家族、職員の思いを取り入れている。ケア内容変更時は申し送り簿を用いて共通理解している。訪問診療時、診療所と連携し医療的ケアのアドバイスをもらっている。	居室担当職員が月1回モニタリングを行い、介護支援専門員や他職種間で情報共有し、更新時や状態変化など必要に応じて、計画の見直しを行っている。サービス担当者会議は、コロナ禍の為、玄関先にて、利用者、家族、職員が参加し開催している。利用者、家族の思いや意見を確認し、利用者の課題やケアの在り方などより良い暮らしの支援に向け取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入浴や作業療法、全体活動、散歩の様子等入居者の発する言葉で記録するように努めている。記録より入居者の変化を知り介護計画に生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と疎遠になっている方、急に不安になり仏壇や葬式お墓の話をする場合は、家族や区長さんと協力して最後まで見届けること話安心してもらっている。近くに家族のいない方の買い物を代行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お金管理やってもらえる家族がいない方権利擁護を利用している。昨年はコロナの影響で地域の催しほとんどなく外出も殆どなかった。ホーム内の庭の散歩で桜、桃、梅の花、クワンソウの観賞を行った。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療で顔なじみになり友達感覚で「あんた元気ね」と医師と会話弾む。状態変化時はラインでやり取りし、診察行い必要に応じ受診している。専門医必要な場合は専門医を紹介してもらっている	利用者全員、入居前より馴染みのある診療所の医師に、月1回訪問診療を受けている。また状態に応じ、電子媒体にてかかりつけ医へ報告、助言を得るなど連携を図っている。皮膚科など専門医への受診は家族へ協力依頼している。年1回の健康検査の案内など家族へ説明、相談し、健康管理を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の健康状態を把握しており変化がある場合は看護師に報告し適切な対応行っている。入浴時皮膚の観察を行い変化がある場合は看護師に報告し指示を仰いでいる。擦過傷があった場合はすぐ看護師に報告し処置してもらっている。不穏時は診療所と連携し薬の調整を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、基本情報を送りホームでの様子を情報提供している。病院より食事全然取らないと介助の方法を知りたいと電話があったことがあり、でむいて食事介助する事により早めに退院できた事例がある。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時、必要時(重度化した場合、面会時等の会話から)看取り指針を説明し本人、家族の意向を確認している。状態変化時や入院時等今後どうするか再確認している。看取りを行う場合、訪問医と協力しホームで出来る限りのことをする事を伝えている	重度化や看取りについて、入院時、状態変化など必要に応じ、定期的に本人・家族へ説明し、意向を確認している。施設看護師やかかりつけ医とは24時間連絡体制が確立している。職員へは終末期に入る利用者の変化など勉強会の開催や看取り後、振り返りを行い、不安軽減に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時処置の方法をその勤務の職員で確認している。その他の職員に対しては資料を申し送りし共通理解している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・昼夜想定で年2回火災・避難訓練を実施。 ・通報装置、スプリンクラーを設置している。 ・区長、近隣の方も火災通報装置に登録し協力を取れる体制を整えている。 ・発電機を購入し急な停電などにも対応できるようにしている。	昨年10月、昼間の火災を想定した避難訓練を実施し、今年3月中に夜間を想定した避難訓練を予定している。今年度はコロナ感染拡大防止の為、地域住民や消防署の立ち合い協力は得ず、職員間で消火器や避難経路の確認、避難誘導を実施している。災害に備えた非常用食料は1週間分確保している。また急な停電に備え、自家発電機を購入している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者を自分の立場に置き換え接しケアしている。おしゃれ好きな入居者は居室から出てくる際は整髪し鏡を確認してもらったり、入浴後は女性職員が眉書き対応している。入居者の名前は「さん」を付けて呼ぶ。声掛けは入居者が聞き取りやすいようにゆっくり話すように心がけている。	個人情報保護方針及び利用目的は、ファイルに整理し、いつでも閲覧できるように玄関先に掲示している。職員へ入社時、就業規則にて情報管理や守秘義務の周知徹底を行っている。また馴れ合いの中で、不適切な言葉や対応にならない様に配慮している。排泄支援の際、基本はドアを開けているが、本人の意向によりカーテン利用もあり、個々に合わせプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者とのコミュニケーションを密にし、利用者が遠慮なく自分の希望が言える環境づくりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活ペースを大切に気持ちに寄り添いながら落ち着いた状態で過ごしていただくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際のおしゃれ着を一緒に選んだり、起床時、午睡後は髪や衣服の乱れを整えている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	見た目も美しくバランスの良い食事作りを心がけている。利用者が菜園で育てた季節の野菜を利用者と一緒に収穫し、つくろい、それを調理している。食材の皮むき、種取りも一緒にやっている。お膳拭き、テーブル拭きも一緒に行っている。	利用者と菜園で育てた季節の野菜と一緒に収穫、繕いし、職員が3食調理している。また毎食、利用者と同じメニューを職員も一緒に同席し摂っている。近況では、ひな祭りにちらし寿司作りや誕生会でリクエストに応え、刺身を提供するなど食事を楽しめる様に努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせてアチビー・キザミで提供している。お茶・水を飲まない利用者には玄米を提供している。外で作業を好んでやられる利用者はペットボトルを準備し水分補給できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをし必要な場合は介助にて対応し毎回実施している。舌苔のある人は酢うがいや舌ブラシを使用し磨いている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ズボンの上げ下ろしの難しい利用者に対して、できるところまでは見守り、その後介助にて対応している。排泄チェック表を確認し声掛けしトイレ誘導している。	トイレでの排泄が維持できるように、個々の排泄パターンや習慣を把握し、また体型に合わせ補助便座の取り付けや手作りの足置きを設置し、自立に向けた排泄支援をしている。また食事やスクワット運動などで身体機能を高め、薬の服用無しで便秘が解消された事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操・外の散歩・手すりを使用時のスクワット運動を取り入れ実践している。食事を工夫、便通をよくする食材を使用し調理している。それでも排便のない場合は座薬を使用する		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の健康状態や予定を考慮し入浴の声掛けを行っている。利用者から入浴の希望があれば予定になくても入浴できるように支援している。入浴後は保湿クリームや乳液を使用している。	週3回の午前、入浴実施しているが、排泄の失敗時や本人の希望に合わせて対応している。入浴後は、皮膚トラブル防止に保湿を徹底している。また地区が石灰を多く含んだ硬水の為、利用者の身体などに負担をかけないよう軟水器を導入している。浴室、脱衣場、居間は温度調節器で調節している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	良い生活リズムができるように毎朝全員で庭を散歩し、午前、午後の2回全員で30分かけ体操を実施。その他にパズルや風船バレー、読書、畑作業など利用者がそれぞれ好きなレクや活動を楽しんでできるように日中の活動を支援、夜間ぐっすり眠れるようにしている。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理を看護師が実施し介護職員は体調変化や排便状況を観察記録し情報を共有している。利用者ごとに服用薬情報をファイルし職員間で情報を共有している。	処方された薬は看護師が仕分け後、毎日1日分づつを服薬カレンダーへ夜勤者がセッティングし、与薬は勤務で固定し行っている。薬の変更時は、看護師が申し送りや介護記録で説明し、情報共有している。安全な服薬支援に向け、服薬支援に関するマニュアルも整備している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の満足感達成を目標に興味のある事、趣味などを中心に支援している。職員が共有し申し送りなどで作業などが途切れないようにしている。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	晴れの日には毎朝散歩へ出かけている。買い物希望などあればその都度対応している。コロナの影響で外出の機会は減ったが季節の花見など良い所の情報があれば計画し見物に行っている。	天候に合わせて毎朝、利用者全員で敷地内の散歩を楽しんでいる。所々に設置しているベンチで休憩しながら花木の観賞や玄関前のテーブルで収穫した野菜を繕ったりしている。コロナ禍で、外出自粛中の為、感染予防対策を徹底し、今年度は車窓から桜見学を実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナの影響前は毎月のお小遣いのある利用者が買い物を希望されるとその都度連れていき支払いまで自分でできるように見守りなどしていたが、現在はコロナ感染予防のため希望を聞きネットで購入可能なものはタブレットなどでネットショッピングをしてもらったり、食べ物や飲み物は職員が近くのお店へ行き買い物を代行している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば深夜でなければすぐに対応し、深夜の場合は夜遅いことを説明し翌朝に電話している。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には散歩後、みんなで収穫した野菜をつくらったり、みんなで歌を歌ったりできるようにベンチと机を設置。屋内にはリビング以外で読書できるように机とイスを設置したり、利用者が制作したその季節のちぎり絵などを飾って季節を感じつつリラックスできるように工夫している。	共有空間は広く、天窓から自然光が差し込み明るい雰囲気になっている。食堂兼居間に台所があり、ご飯の炊ける匂いや音が間近に感じられる。利用者の座席は気の合う者同士で配慮している。廊下の壁には、季節に合わせ、ひな祭りのちぎり絵作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者は隣同士になる様に席を配置している。一人で集中して読書ができるように読書専用のイスと机を設置している。外での作業が好きな利用者が休めるようにベンチと机を設置している。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはこれまでに使い慣れた愛着のある者を使用していただき、利用者が居心地よく安心して生活できるように支援している。	本人、家族へ使い慣れた馴染みのある家具や日用品など持参依頼し、これまでの生活と変わらない環境作りに努めている。仏壇を持参された利用者は、自主的に水の差し替えなど習慣とされていた。また読書好きの利用者には机と椅子を設置し、居心地よく過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が自力で出来ることは見守り、安全に考慮し対応している。ADLが低下し、今までできていたことができなくなってきた利用者は職員皆で情報を共有し対応している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	「認知症」について地域住民に理解を深める活動を以前から考えているが、実行に移せていない。	地域の集まりにて「認知症」について普及啓発活動を実施する	管理者が定期的に参加している地域活動の場において普及啓発活動を実施する。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。